

月	火	水	木	金	土	日
2	3	4	5	6	7	8
月火曜日は 休館日						
9	10	11	12 陶芸教室 夜間開放	13	14 木育フェス	15
16	17	18	19 陶芸教室 夜間開放	20	21	22 森林療法 おさんぽの会
23	24	25	26 陶芸教室 夜間開放	27	28	29
30	31		陶芸教室 夜間開放			

開館時間 9:30~17:00 ※(木)のみ~20:30

今月のご案内

～関連事業～

くろまつない秋の木育フェス

昨年、初開催で好評だった『木育フェス』（主催：くろまつない木育フレンズほか）が、今年はブナセンター周辺で行われます。フェスのメインイベント『カトラリー作り』には定員があり、別チラシでの申し込みとなりますが、それ以外の方も、当日ブナセンターで、削り馬の体験や木工房での簡単なクラフト体験ができます。見学がてら、遊びにきてください！

【日程】10月14日（土）

【時間】10:00~16:00

【場所】ブナセンター駐車場芝生・木工房

【対象】小学生以上（小学生は保護者同伴で）

※削り馬は中学生以上（無料）※木工房利用は有料

【持ち物】汚れても良い服装

工房からのお知らせ

ブナセンターには3つの工房があります

木工房：開館時間中は随時利用できます

陶工房：初めての方は教室にご参加ください

食工房：主に冬期間、町内のグループが味噌や豆腐を作ります（興味のある方はまずは見学を）

使用料 210円（大人1名2時間）～
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

工房利用についてくわしくはお問合せください

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります

毎週木曜日 18:30~20:30

材料費は
かかります

陶芸教室 初心者向けの教室です（予約制）

毎週木曜日 13:30~15:30
18:30~20:30

参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに
3回の来館が
必要です※

※①作品作り②素焼き後の色づけ③完成品の受取り
①~③まで2ヶ月程度かかります

くろまつないの
自然いちおし情報

ブナの黄葉

こうよう

ブナは、他の多くの樹種より色づくのが遅く、例年10月20日前後から黄色くなり始めます。やがて10月末には黄色から黄金色へ、さらに金茶色へと変化していきます。秋の冷え込み具合によっては、全体が一気に黄金色に輝く年もあれば、三色まだらの状態が続くことも。最後に茶褐色になって散っていくのは例年11月中旬頃です。

今年の夏は記録的酷暑でしたが、紅葉・黄葉の色合いに影響はあるのでしょうか？10月はぜひブナ林の「黄葉観察」へ！

秋のブナ林は「きいろ」が主役！



歌オブナ林の

天然記念物指定記念日

今から95年前、1928(昭和3)年10月22日、歌オブナ林は「歌オぶな自生北限地帯」として国の天然記念物に指定されました。



FacebookのQRコードはこちらから

発行所：黒松内町ブナセンター

〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1

TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440

MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>

FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ブナセンターだより ときどき プラス



今年、ブナセンターは開館30周年を迎えました。

開館した1993年は熱帯地区でクジラ、カイギュウと大型哺乳類の化石が相次いで発見された年でもありました。当時、教育委員会の職員のほぼ全員が駆り出され、化石発掘作業に従事しました。その後、翌年秋より1996年春にかけて、町民ボランティアを中心に、クジラ化石のクリーニング作業が行われ、完成した標本は現在ブナホールに展示されています。

この時のクリーニング作業に参加したのがご縁で、黒松内の化石にはまり(?)、現在まで「ブナセンター化石ボランティア」として、化石標本の整理、図鑑の作成、学校での化石学習のサポートなどに携わってこられた亀水良子さんに、当時の思い出を2回にわたり語っていただきました。

ブナセンターと化石がつながった日 ~その1~

1994年秋、町の回覧に一枚のお知らせが入りました。町内から見つかったクジラ化石のクリーニングに参加しませんか、というお誘いです。前年、熱帯地区の通称「カルシウム工場」の敷地から見つかった大きなクジラ化石は、当時、掘り出されたままになっていました。そこで、町民有志が参加して、その後の作業をすることになったのです。場所はブナセンターの倉庫。参加者多数。私も含め『クリーニングって?』と、何やらよくわからないまま足を運んだ方々もいたのではないかと思います。

地層や化石についての説明を受け、化石周りの小石や砂を歯ブラシなどでこそげ落とす作業が始まりました。ワイワイと、黙々と、やる気の割には進まない作業です。びっくりしたのは休憩時間で、参加者一同にコーヒーとお菓子のおもてなし。まるで大切なお客様のようです。おやつが出るならまた来ようかなという軽い気持ちで、私と化石との関わりも始まりました。

この日からスタートしたクジラ化石クリーニング作業には、一般の方々をはじめ古生物学に詳しい中学・高校教師や大学教授、博物館の学芸員からの助言や協力も寄せられ、実に多くの人たちがこの化石に関わることとなりました。(つづく)

ブナセンター化石ボランティア

亀水良子



ブナホールに展示してあるクジラ化石。
頭骨の一部で、中央の穴は脊髄が通っていたところ。

発掘の指導して
くださった木村方一先生
(当時、北海道教育大学
教授)を囲んで



化石発掘時の様子。(1993年6月21日撮影)